

西洋音楽の導入

トピック(テーマ)	西洋音楽の導入		
ねらい	ペリー来航とともに西洋の軍楽が日本に上陸、軍楽とともに西洋音楽が導入され、信州に定着するまでの過程を探る。幕末維新时期から明治中期にかけて小県上田地域において音楽関係で活躍した人々の実績を中心に調べる。		
キーワード	ペリー来航、イギリス軍隊、軍楽隊、赤松小三郎、英国歩兵練法、英国楽譜、上田藩軍隊、上田藩西洋式軍事訓練、上田領武石村、農兵指導、喇叭指導、正木直太郎、東京師範学校、能勢栄、長野師範学校、バイオリン、井沢修二、文部省、唱歌教育法、胡弓、箏、三味線、模造バイオリン、与良熊太郎、小県中学校、丸子学校、柴崎虎五郎、柴崎マリ子、楽器購入、蚕種業者、製糸業者、丸子音楽隊、上田音楽隊、長野軍楽隊、渡辺敏、		
概要を知るためのツール	1	書名	長野県教育史／第5巻／教育課程編二
		著者名	中村一雄／編
		出版社	長野県教育史刊行会
		出版年	1974
		内容紹介	第7章「音楽教育」に、長野県への西洋音楽の導入過程が記されている。上田の小県中学校に唱歌伝習所を開設する過程が史料にもとづいてくわしく記されている。主導者は東京師範学校を卒業後、郷里の上田に赴任した正木直太郎である。彼が文部省の方針とは異なり「バイオリンで唱歌の伴奏を」と尽力した過程が紹介されている。
資料リスト	1	書名	赤松小三郎先生
		著者名	柴崎新一／著
		出版社	信濃教育会／編 信濃毎日新聞／刊
		出版年	1939
		内容紹介	赤松小三郎の書簡や関係史料を紹介しつつ小三郎の生涯を記している。そのなか「英国歩兵練法の訳出」の項で『喇叭譜図の一例』として「進軍」「告急即ち騎兵ノ顕出」の二つの楽譜が紹介されている。
	2	書名	ふるさと上田人物伝
		著者名	阿部勇、小平千文、児玉卓文、滝澤正幸／編著
		出版社	上田市教育委員会 文化振興課
		出版年	2017
		内容紹介	「正木直太郎」部分の冒頭で、上田に開校した小県中学校における唱歌教育の実践概要が記されている。このほかに、正木の生い立ち、長野師範学校となり信州教育に新しい学風をもたらしたこと、などが簡潔にまとめられている。
	3	書名	信州の近代教師群像
		著者名	中村一雄／著
		出版社	東京法令出版
		出版年	1992
		内容紹介	「正木直太郎が学風継承」の「小県郡と小県中学校の唱歌教育授業」の項に正木が唱歌授業の発達につとめたことが記されている。中村は「正木は、唱歌教授をとりいれ、音楽教育を軌道にのせて正常な発達を図ろうとした」と結んでいる。
	4	書名	丸子中央小学校百年史
著者名		丸子中央小学校百年史編集委員会／編	
出版社		丸子中央小学校百年史刊行会	
出版年		1973	

		内容紹介	丸子学校校長柴崎虎五郎の実践教育の一環として、明治中期の丸子村に丸子音楽隊を結成したことが、学校に保管されていた史料をもとに紹介されている。
	5	書名	長野県教育史 第一巻 総説編一
		著者名	長野県教育史刊行会／編集
		出版社	長野県教育史刊行会
		出版年	1978
		内容紹介	長野県師範学校で、能勢栄によって模造ヴァイオリンによる唱歌教育がされた(806ページ)
雑誌	1	論題名	明治初期の信号喇叭について：赤松小三郎訳『英国歩兵練法』をめぐって
		著者名	江崎公子／著
		雑誌名	音楽研究：大学院研究年報 国立音楽大学リポジトリ
		出版年	2003.1.1
		巻号頁数	15巻 83-109ページ
	2	論題名	昭和前期の国民学校におけるブラスバンド及びラッパ鼓隊の活動：長野県飯田市及び上田市を中心に
		著者名	山中和佳／著
		雑誌名	音楽教育研究ジャーナル
		出版年	2012
		巻号頁数	(38) 1-12ページ
インターネット	1	サイト名	上田市マルチメディア情報センター 赤松小三郎ヒストリー 英国歩兵練法・重訂英国歩兵練法
		URL	https://museum.unic.jp/akamatsu/history/history05.html
		概要	英国歩兵練法について紹介
新聞	1	見出し	唄の旅人 中山晋平(40)伝統音楽を意識 苦慮
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊14ページ
		年月日	2008.1.19
	2	見出し	ふれあい協奏曲(中)音楽教育の基礎づくりに奔走 近代国家
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊30ページ
		年月日	2009.10.23
	3	見出し	音楽と政治 「受け」狙った 娯楽の先で
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊15ページ
		年月日	2017.10.4